清流の国ぎふ 防災・減災センター

# 第４回防災活動大賞

令和５年１月

# ご挨拶

清流の国ぎふ 防災・減災センター主催の第４回防災活動大賞選考会開催にあたり、一言、ご挨拶申し上げます。

この“防災活動大賞”は、県民の皆様の防災力アップの参考にしていただくために、岐阜県内の優れた防災活動を募集し、公開選考会で“防災活動大賞”を選出し、公開するというものです。

大変長い期間、続いているコロナ禍にもかかわらず、防災活動に取り組む７つの団体から応募を頂戴しました。参考までに、第１回では 25 件、第 2 回では 12 件、昨年度の第３回では８件の応募がございました。

中学校での取り組み、過去の防災活動大賞に応募いただいた団体によるその後の地域防災活動、最新の技術や手法を防災啓発に取り入れた団体の取り組みなど、多様な団体がそれぞれの特徴と問題意識にもとづいて取り組んだ事例が応募されています。

応募ポスターの上部にはタイトルとサブタイトルがありますが、それぞれの特徴を表現したタイトルが付されています。

皆様の活動の参考にきっとなると思いますので、よろしくお願いいたします。

清流の国ぎふ 防災･減災センター長　杉戸　真太

# 第４回防災活動大賞　実施概要

## 【　募集期間　】

2022 年 10 月～2023 年 1 月 18 日

## 【　応募対象　】

応募することのできる活動は、以下の（１）～（４）をすべて満たすこととします。

（１）岐阜県内で取り組んでいる活動であること(頻度、回数は問いません)。
（２）活動する者は団体、個人や公共、私的を問いません。
（３）活動の結果が防災・減災に関する取り組み内容であること。(寄与のレベル、度合いや活動の難易度は問いません。間接的に防災・減災に関する取り組みであるケースも含みます。)
（４）電子メールによる連絡及びファイルの送受信が可能であること（携帯電話会社が提供するメールアドレス以外の電子メールであること)。

## 【　公開選考会　】

（１）冒頭に 60 秒ずつの自己紹介を発表者が行いました。
（２）その後、ポスターセッション方式により活動の紹介を行いました。
（３）これらを踏まえて、来場者(30 余名)による投票を行いました。
（４）また、清流の国ぎふ防災・減災センター関係者による選考を別室で行い「防災活動大賞」を 3 点選出しました。
（５）上記選考で選出されなかった４団体の中で、上記「(３)」の上位 1 点を「特別賞」に選出しました。
（６）当日のタイムスケジュールは以下の通り

開催日：2023 年 1 月 21 日(土)

13:30　開会挨拶
13:40　タイムスケジュールと選考ルールの説明
13:45　発表者自己紹介
13:55　ポスター発表
14:25　投票・休憩
14:35　自由交流
15:00　表彰式(表彰：能島副センター長)
15:20　閉会

## 【　選考結果　】

選考の結果は以下の通りです。

≪　防災活動大賞　≫
以下３点を防災活動大賞としました。

（応募受付順に掲載）
飛騨市立神岡中学校文化部
「自ら学び伝える、本気のぼうさい　～中学生から広げる防災～」

ＮＰＯ法人 防災士なかつがわ会
「子供から家庭、そして地域に」

チーム本荘
「助けられる側から助ける側へ　「第４章」」

≪　特別賞　≫
以下１点を防災活動大賞特別賞としました。

岐阜県立大垣特別支援学校
「「やってみなくちゃ　分からない！」　～学校・家庭・地域と繋がる　防災の輪～」

## 当日の様子

発表者・防災活動大賞審査員の面々

| | |
|---|---|
| 飛騨市立神岡中学校文化部<br> | ＮＰＯ法人 防災士なかつがわ会<br> |
| チーム本荘<br> | 岐阜県立大垣特別支援学校<br> |

受賞団体による説明の様子

# 応募作品一覧

（応募受付順に掲載）

| 団体 | 主な活動範囲 | タイトル |
|---|---|---|
| 飛騨市立神岡中学校文化部 | 飛騨市立神岡中学校 | 自ら学び伝える、本気のぼうさい<br>～ 中学生から広げる防災 ～ |
| 一般社団法人 中部地域づくり協会<br>地域づくり技術研究所 | 岐阜県全域 | 「大雨から誰一人取り残さない」<br>逃げ遅れゼロに向けて住民避難を後押し |
| ＮＰＯ法人 防災士なかつがわ会 | 中津川市全域 | 子供から家庭、そして地域に |
| 小熊町新生町自治委員会＆<br>小熊新生防災会 | 羽島市小熊地区 | 小熊町新生町地区防災計画の作成<br>～ 高めよう！自助・共助の力 ～ |
| チーム本荘 | 岐阜市本荘地区 | 助けられる側から助ける側へ　「第４章」 |
| 一般社団法人 Do It Yourself | 岐阜県 | 防災活動の参加者を多様化するための<br>Web アプリ「減災 GO！」による<br>防災まち歩き活動の支援 |
| 岐阜県立大垣特別支援学校 | 大垣市 | 「やってみなくちゃ　分からない！」<br>～学校・家庭・地域と繋がる　防災の輪～ |

# ポスター集

全 7 品のポスターを次ページ以降に収録します。

# 自ら学び伝える、本気のぼうさい
# ～ 中学生から広げる防災～

## 【活動内容の特徴】

**自分たちが防災リーダー・防災士となった！**

文化部の活動目標は「神岡中学校と地域に貢献する」としている。防災について学ぶことは貢献につながると考え、飛騨市防災リーダー講習会で学び、防災士の資格をとっている。防災士は現在５名、今年度取得予定７名おり、楽しく取り組んでいる。

## 【団体の紹介】

・飛騨市立神岡中学校
・令和３年１月～現在
・部員数１７名
　(防災士５名＋R4年度予定者７名)
・協力者
　(Edo手嶋さん・坂場校務員さん)
・部活動で自主的に取り組んでいます。

## 【アピールしたい防災活動の成果】

**部活動で「自助」「共助」に取り組んでいる！**

自らが学習し防災士となり、知識を深め、防災について身近に感じて楽しく学んでほしいと思い、周りの人に発信している！

**「自助」かるた・クイズを使いゲーム感覚で発信！**
**「共助」かるたやひまわりを地域へプレゼント。地域とつながる！**

希望のひまわり

## 【活動内容の詳細】

**「楽しんで学ぶ」をモットーに　～中学生目線で発信～**

### 防災かるた

**「小学生でもわかる内容で、楽しく遊びながら防災の知識を深めてもらおう」**として作成。飛騨市HP「我が家の防災」と防災リーダー養成講座教本を参考資料に読み札を作成。**試行錯誤しながら１年以上かけて完成**。地域の小学校・保育園・老人福祉センター・図書館等に贈呈した。

### 命を守る訓練にて「防災・減災クイズ」

防災士メンバーで、**学校が行う「命を守る訓練」に参画**した。岐阜県発行「減災教室」冊子を参考に、**防災・減災について楽しく学び、身近なものにするためクイズ形式で**全校に発信した。

### 校内防災ウォッチング

防災士岩井さんに、**校内の設備を知ることも大切**と言われ、**元市消防長の坂場校務員さん**と学校内の防災設備を見学し確認する。**非常時に、誰もが当たり前に使えるように全校へ発信します！**

3年生の厳しいチェック
かるた

全校でthinking　time
クイズ

坂場さんに質問中
ウォッチング

## 【活動成果】

### ＜実施者から見た効果＞

・**防災士や防災リーダーとなる**ことで、**説得力のある発信**ができるようになった。
・「かるた」や「クイズ」にして楽しく学ぶことを工夫したことで、**防災について興味をもってもらえ、身近なものにできた。**
・地域へも発信したことで、**新聞や施設の広報に紹介され、さらに取り組みが周知された。**

### ＜参加者等から見た効果＞

「かるた」
・**完成度の高さにびっくり**した。中学生が頑張って作ったものだから、施設の方も喜んでやってくれると思う。

「クイズ」
・**資格をとって教えてくれているから説得力がやばい！**とっても勉強になった。

# 「大雨から誰一人取り残さない」逃げ遅れゼロに向けて住民避難を後押し

## 【活動内容の特徴】

### あらゆる人に伝わる防災啓発

**浸水疑似体験VRや人気ゲームソフト「あつ森」、ピクトグラムなどを活用**し、大雨からの早期避難に向けた意識改善を目的に、**あらゆる世代、外国人や障がいのある人など、ダイバーシティも意識した防災啓発活動**を実施している。

## 【団体の紹介】

- 岐阜県全域
- 令和元年～現在
- 実働人数4人/職員94人
- 大雨から大切な命を守るため、逃げ遅れゼロに向けて、早期避難の重要性があらゆる人に伝わることを目指し、取り組みを推進している。

## 【アピールしたい防災活動の成果】

### 大雨から大切な命を守るため、「早期避難に向けた意識改革と守られる人から守る人への意識醸成」

**あらゆる世代、障がいのある人など2,400人が、学校やイベントでの防災講座、防災訓練、自治体職員VR体験会などでのVRや映像による浸水疑似体験**などを通じ、大雨から大切な命を守るため、早期避難に向けた意識改革、守られる人から守る人への意識醸成が図られている。

## 【活動内容の詳細】

### ＶＲなどを活用し体験型防災講座などの啓発を実施

防災講座では、浸水疑似体験ＶＲ及び浸水疑似体験映像、「あつ森」の防災啓発動画、「大雨にソナエルピクト」「デジタル展示館」など多様なコンテンツを活用しながら岐阜県で起きた過去の水害や事前の備え、早期避難の重要性などを学ぶ。また、避難や備えについて家族での話し合いを促している。学校では、2020年は高校1校、小学校1校、2021年は高校2校、小学校1校、**2022年は高校6校、中学校6校、小学校8校、特別支援学校1校、聾学校1校**で実施し、確実に拡大が図られ、**延べ27校、受講生徒・児童数は延べ1,800人**に達している。また、**一般の方に対しては、自治会の代表者、親子、外国人などへの防災講座、VR体験会などを実施し参加者は600人**となった。これらの取り組みは**報道機関や学校・自治体ＨＰなどで多くの情報が発信**され、幅広い啓発に繋がっている。

岐阜県立岐阜本巣特別支援学校

大垣市主催外国人防災啓発講座

## 【活動成果】

### ＜実施者から見た効果＞

- 講座を受講した生徒・児童へのアンケートでは、**約90%が早く避難したいと回答**し、早期避難に向けた防災意識の高まりと、避難インフルエンサー（災害時避難行動リーダー）育成へつながることが確認できた。
- 防災講座に**VRによる浸水疑似体験、浸水疑似体験映像の視聴を取り入れることは、災害未経験者が水害を自分ごととして捉えられ、聞くだけではなく体験が加わることで、より効果的な防災学習に繋がっている。**

### ＜参加者等から見た効果＞

- 浸水疑似体験VRの活用では、**「これまで災害を経験したことがないので、VRを体験して水害の怖さがはじめて実感できた」「近隣の人に呼びかけ早く避難したい」「家族での話し合いと準備が大切」**などの感想が寄せられ、先生・生徒・一般の体験者などから好評である。
- 「あつ森」の防災啓発動画は、生徒・児童へのアンケートでは**約90%が避難場所について理解できたと回答**している。

# NPO法人 防災士なかつがわ会

# 子供から家庭、そして地域に

## 【活動内容の特徴】

### 小学生を対象とした防災教室を実施し１２年

◆坂本地域の2つの学童保育所の児童を中心に始めた防災教室が、今では子供たちへの勉強会のスタートとなり、小学校は勿論、家庭そして他地区へ拡大しています。
◆約４時間で様々なプログラムを体験しながら、楽しくかつ真剣に防災について考えてもらう機会となっています。
●コロナ禍における中断が最初の１年ありましたが、その後は要望に応えて、複数回に分散して開催しました。

## 【団体の紹介】

・中津川市全域
・平成23年1月～現在(約12年)
・実働：約30人、会員100人
・『自分の命は自分で守る』を合言葉に、全ての年代と学校その他様々な場所で、行政機関と連携を取りながら、防災減災の啓発活動並びに、その支援・実践に取り組んでいます。

## 【アピールしたい防災活動の成果】

### 近所に住む「家族以外の大人」とつながる

◆この防災教室は、地区社協や民生委員会などの地域の大人たちの全面的な協力のもとで実施され、地域全体としての取り組みに発展しています。
◆また、子どもたちが「家族以外の大人」とつながる機会となり「地域の子どもは地域で守る」「自分も地域の一員として地域のためにできることがある」ということを考える機会となっています。
●消防署との協力の中で市の救急車台数等を知り、怪我しない、命を守るためを具体的に考えています。

### 子どもから「家族防災会議」につなげる

◆参加した子どもたちから「家族防災会議」につながり、地域との関わりが薄くなりがちな親世代に「地域とつながることが自分の子どもや家族のためになる」ということを考える機会となっています。

## 【活動内容の詳細】

◆防災紙芝居やクイズ、割れガラス体験、防災借り物競争、段ボールトイレ、毛布担架搬送、救急救命体操、消防署の協力を得ての１１９番通信訓練、我が家の危険個所確認（家庭内DIG）、雷対策、起震車体験、パッククッキング、段ボールでの避難所設営とそこでの家族防災会議など、その年度の大災害の話など交えながら地域の大人と一緒に楽しく体験してもらっています。

## 【活動成果】

### ＜実施者から見た効果＞

●既に12年も継続しているこの坂本地区では、子どもたちの防災スキルは格段に向上、上級生が下級生を指導したり、地域の防災訓練で子どもたちが先生役をする場面も出始めています。
●防災・減災対策で重要な「ご近所づきあい」が結局は「まちづくり」につながることを皆が認識し始めています。
●非常に評価が高く年々、実施回数が増加しています。

### ＜参加者等から見た効果＞

●「いかにして自分を守るのか」具体的な対策を考えること、知ることができた。
●「非常時に家族以外に頼れる人がいる」ことを知ることができ安心した。
●関係が薄れつつある地域とのつながりの必要性を再確認できた。

# 小熊町新生町地区防災計画の作成
# ～ 高めよう！自助・共助の力 ～

## 【活動内容の特徴】

【実施団体】
小熊町新生町自治員会と小熊新生防災会
【取組内容】
防災に関わる団体のみならず、まち歩きなどを通して、大人から子どもまでが関わった。

## 【団体の紹介】

・羽島市小熊地区
・令和４年４月～現在~未来
・世帯数2,500
・大人から子どもまでおよそ250人が計画作成関わった

## 【アピールしたい防災活動の成果】

内閣府の支援事業の選定を受けながらもコロナ禍でそれが逆あだとなり足踏みをしながらも、地域全体で取り組み、考え、地区内を歩き回って作り上げた地区防災計画。

## 【活動内容の詳細】

各分野の代表者により地域の抱える課題や問題の洗い出しを行う。住民防災意識調査を行ったり、子ども会と防災会が共同で「防災まち歩き」を行う。素案作りを防災会で行い、１２月に素案を発表、１月15日に市役所へ提案。

<計画に盛り込まれた主な内容>
・住民の役割の明確化・・・・自分の命は自分で守る、備蓄3日
・防災に関わる組織・・・・・自主防災組織と防災会
・高齢者世帯の耐震対策支援・転倒防止策を施しに行く
・啓発活動の内容・・・・・・啓発文書（年4回）ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ作成

・災害対策本部の設置規定
・・・・・・・・開設の基準
・無事です！タオル
・・安否確認の基本ルール
・見直しのスケジュール
・・・・・誰がいつ行うか

## 【活動成果】

### <実施者から見た効果>

小熊１４自治会で取り組みことにより地区全体が足並みを揃えることが出来る。
作成にあたり大人から子どもまで幅広く参加することにより作成の課程がすでに啓発活動となっていた。
要配慮者、避難行動要支援者宅の耐震対策をしながら個別避難計画が作成できる。

### <参加者等から見た効果>

子ども会が防災マップ作りに参加して、嫁いで来た若いお母さん方が自分の住む街を知ったり、見つめなおすきっかけとなった。

計画に盛り込まれた「高齢者世帯等の耐震支援」を受けることで減災につながる。

# 助けられる側から助ける側へ　「第４章」

## 【活動内容の特徴】

### 中学校の災害時の役割・地域連携を体験

■災害を身近なことと考え、「傾聴と共感」を忘れず目配り、気配り、心配りのできる支援者、救助者となってもらうことを目的に行う。
■より実践的プログラムにより、自分に出来る事を考え、気づいてもらう。

## 【団体の紹介】

チーム本荘
・令和元年4月～現在（約4年）
・本荘中学校2年生　150名
・岐阜市民病院DMAT、地域協力企業
岐阜市関係部署職員、地域防災チーム
大規模災害団員、近隣自治会連合会

## 【アピールしたい防災活動の成果】

### 目視・行動することで「助ける側へ」一歩踏み出す

・避難した体育館で情報がないまま待機する「避難者」から、外の避難所からの救助要請（LINE）、仲間の避難状況（QR読み込み）、大規模災害団員から救助援助依頼、DMATのトリアージ搬送等を可視化し、自分が今できることを気づき考える行動することができる。

## 【活動内容の詳細】

### 助けられる側から助ける側へ

・生徒協力者募集は、当日朝行う
　◎自分に出来る事があると気づき行動に移す生徒多数
　→大人の係責任者は協力者に短時間で役割を伝える
　⇒災害時に的確な指示を出す（大人の訓練）
・外部避難所からの情報がわかることで受け入れや救助支援対応策が事前に取れる⇒ラインの活用
・クラスが分散しての避難であってもQR読み込みで、素早く避難状況がわかる⇒避難者の入退出が簡単に残せる
・地域（本荘中学校+岐阜市民病院=隣接）環境を知るため、ドローンを飛ばし全員が目視で位置関係を把握し各々が気づき・行動できることを考える
・災害発生直後から活動できる機動性を備えた医療チーム（DMAT)の動きをまじかに見て、助ける側になることの必要性を直に感じ取る
・大声を出さずに人を誘導する手法（ピクトグラム看板）は、コロナ禍における避難所運営に生かされる

リヤーカーでの搬送

大規模災害団員と救助活動

視覚障碍者の方誘導

受付業務担当

市民病院への搬送（DMAT）

## 【活動成果】

### ＜実施者から見た効果＞

◆「待つだけ避難者」と「行動できる避難者」の差は大きなものである。中学生は大人が気づかない支援策を発案し、弱者に寄り添い安全に避難所へ誘導できた。
◆他地域で、実績を収めている活動を学び、本活動に活かすことが出来た。
◆中学生は防災活動の牽引役と感じた。

### ＜参加者等から見た効果＞

●しっかりと考え、弱者の誘導も的確に行う中学生に感心しました
●抱え込まずコミュニケーション力をフルに発揮し、最善策を考える中学生の姿勢には大人が学ばせてもらいました。
●情報が可視化されることで、状況がわかり落ち着いて行動が出来た。

# 防災活動の参加者を多様化するためのWebアプリ「減災GO！」による防災まち歩き活動の支援

## 【活動内容の特徴】

### 防災への関心が高くない人も誘いやすいゲーム

ハザードマップの記載事項や、住民しか把握していない危険個所などを、限定的な経路（資料配布や講座）でしか周知できていないことに着目し、関心度や時間に制限されず、コロナ渦でも実施しやすい集合不要な**スマホゲームで気づいてもらう活動を支援**

## 【団体の紹介】

・岐阜県
・令和3年～現在（2年半ほど）
・実働人数 14人、総人数 14人
・防災への関心が高くない住民への「働きかけ方」としてアンケートやゲームを研究開発し、地区防災組織や防災士の方に提案・実践支援しています

## 【アピールしたい防災活動の成果】

### 自分たちで考えた防災課題をスポットの位置や画像に反映

自分たちで考えた防災課題を、用意されたゲーム内のスポット位置や表示画像に反映させることで、**地区オリジナルのゲームイベントを実施**できる。家族やご近所で、防災への関心が高くない人でも**参加を誘いやすいので、参加者の多様化**に役立つ。

避難経路に設置したスポットでカード獲得
（R4年多治見市の第１区防災訓練にて）

## 【活動内容の詳細】

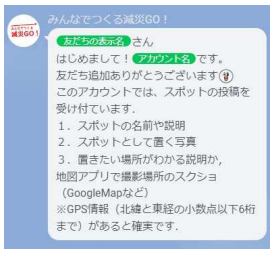
### 「減災GO！」による防災まち歩き活動の実践を支援

支援実績：多治見市住民組織、岐阜大学学生、
本巣市ジュニア防災リーダー養成講座等

準備：ハザードマップの記載事項や、住民しか知らない危険個所を、地区の防災組織役員や防災士で挙げ、ゲーム内にスポットとして設置しておく。ゲームイベントのチラシを作成配布する。

参加者がやること

①ゲームの地図上にあるスポットの場所に行く
↓
②チェックインボタンを押してトランプカードを獲得する
↓
③設定期間内に獲得したトランプカードの中から5枚を選択してポーカーの役を作る
↓
④役の強さによるランキングが表示される（競える）




LINEでスポット募集

実施概要やスポットの検討

参加募集チラシ

## 【活動成果】

### ＜実施者から見た効果＞

・ハザードマップの記載事項や、住民しか把握していない危険個所などを、資料配布や講座以外で伝えていく経路が形成できる。
・関心度や時間に制限されず、コロナ渦でも実施しやすい集合不要な機会をつくることで、自主防災組織や防災士が、働きかけやすい活動の選択肢を提案できる。

### ＜参加者等から見た効果＞

・楽しそうで参加した結果、防災につながる。
・もともと役職や当番で防災講座や防災訓練に参加する住民にとって、（まじめな時間ではあるが）楽しむことができる。
・遊び（競い）によってつい本気になったり、家族や友人を誘ったりできて、楽しめる。

# 岐阜県立大垣特別支援学校

# 「やってみなくちゃ　分からない！」
# ～学校・家庭・地域と繋がる　防災の輪～

## 【活動内容の特徴】

### 主体的な防災教育　学校の取組みを家庭や地域へ

・経験のないことを自分に起こりうることとして捉えることが難しい児童生徒が、災害を疑似体験したり、主体的に考えたりしていく実践。
・防災の取組みを発信し、家庭や地域と連携し、命を守り切ることができるようにする。

## 【団体の紹介】

・大垣市
・令和３年４月～現在(２年)
・児童生徒２８３名、職員１６7名
・IAMASと連携して新たな防災教育の教材の作成を行ったり、本校の取組みを地域に発信したりしている。

## 【アピールしたい防災活動の成果】

### 命を守ることのできる子の育成と助け合える社会へ

主体的で体験的な活動を行い、生涯にわたって防災への意識をもち続けることができるよう実践を重ねている。また、学校の取組みを家庭と連携して進めたり、地域へ伝えたりして、いざという時に助け合える関係を構築していくための一歩を踏み出している。

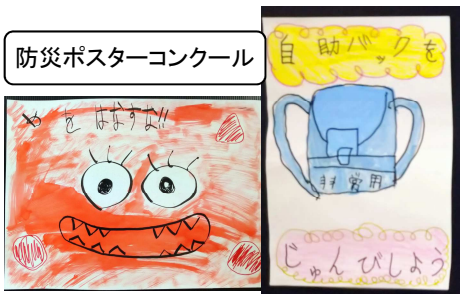
生徒がデザインした防災キャラクター「びっくりす」

## 【活動内容の詳細】

### 主体的で体験的な防災教育と学校から家庭・地域への発信

（１）VR・ARを活用した防災教育（IAMASと連携）
　・AR技術を用いた豪雨体験
　・VR技術をを活用し、地震や浸水害発生時の状況を体験し、その対応を考える学習
（２）スクール防災リーダーを中心とした活動
　・生徒会役員を中心に児童生徒への防災の啓発活動を行う目的で発足。
　・防災ポスターコンクールや校内DIGを実施
（３）家庭と一緒に取り組む活動
　・体験期間を利用した災害伝言ダイヤルクイズの実施
　・備蓄確認月間に行う備蓄品のチェック
　・減災力テストの実施
（４）地域との連携
　・学校で行う防災教育の見学
　・避難所運営協議会の実施
　・共生社会を目指すフレンズクラブの創設

防災ポスターコンクール



AR・VRを用いた防災教育

## 【活動成果】

### ＜実施者から見た効果＞

●多様な防災教育を、複数組み合わせて、適切なタイミングで行うことで、児童生徒の防災への意識が高まり、自分で考えることができる場面が増えた。
●家庭や地域と連携して取り組んでいくことで、子どもたちだけなく、家庭や地域の防災への意識を高めることに繋がった。

### ＜参加者等から見た効果＞

●「早く逃げて」「２階の方が安全だ」「水がいっぱいで怖い」等の意見が多く聞かれ、災害の怖さを知り、防災の大切さを感じる学習ができた。
●地域の方が、防災教育や避難所生活を知ることで、本校への理解が高まり、災害時に互いに助け合う一歩となった。

## 審査委員長講評

４つの選考基準（防災･減災効果、波及性(他団体が再現(真似)できること)、継続性、協働性）に照らして審査いたしました。全体的に高いレベルでの接戦となり、審査員の中でも評価は僅差で分かれました。参加者による特別賞の投票結果も同様でした。結果としては防災活動大賞を３団体、特別賞を１団体としました。連続受賞の団体もありますが、選考基準の「波及性」と「継続性」、そして新規の活動に取り組まれている点を評価した結果、連続受賞になりました。

今回は７件のご応募でしたが、来年度以降もこの「防災活動大賞」は継続して参ります。皆様におかれましては、本日の事例を持ち帰って頂き、今後の活動の充実に活かして頂ければと思います。また、次回にはその活動を報告頂くことを期待しています。

清流の国ぎふ 防災･減災センター　副センター長　能島　暢呂